

平成 30 年度 事業報告書

I 概要

「高岡市総合計画第3次基本計画」では、「豊かな自然と歴史・文化にまつまれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」というまちの将来像に向け、「歴史・文化」分野において、めざすまちの姿を「暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている」まちを掲げており、これを踏まえ事業団では、地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成に向け取り組んだ。また、各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術・文化の振興に貢献できるよう努めた。

○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

平成30年度は、万葉歴史館・美術館・博物館・青年の家・ミュゼふくおかカメラ館・動物園の6施設の第4次指定管理協定期間（平成29年度～33年度）の2年目になり、平成28年度更新したまなび交流館（平成28年度～32年度）を含め計7施設の管理運営を行った。市民会館は、指定管理者の指定期間の変更により高岡市の直営となり、市民会館で展開してきた事業については事務局事業課として事業を継続した。加えて、市民の生涯学習及び交流の場を提供し、生涯学習の振興を図るため、新たに生涯学習事業を受託し、さまざまな事業を展開した。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーについては、引き続き業務を受託した。

各文化施設等が利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った施設管理と事業展開に努める。

○ 文化振興事業の展開

市の文化振興施策の方向を踏まえ、質の高い舞台芸術の創造事業や市民の芸術文化への関心を高める事業、市民ニーズに応える事業などを展開した。

事務局事業として、「10才のファーストコンサート」や「こころの劇場」などこれまでの市民会館事業の継続を会場変更で図りながら、合わせて年間を通して開催する「Ars nova 音楽の祭典」に着手した。4月に「風と緑の楽都音楽祭」高岡公演、9月に「日露交歓コンサート」、10月に「第4回みんなで歌おう1000人の高岡第九」を市民実行委員会とともに、ふくおか総合文化センター・アリーナにて開催した。3月に「オーケストラ×吹奏楽の祭典」と題し、地元高校吹奏楽部を巻き込んだ圧巻のステージを届けた。高岡文化ストック⇒クラウド事業「天才たちと何できる？」では、6月に吹奏楽指導者・藤重佳久氏による吹奏楽公開クリニック、1月に舞踊家・近藤良平氏による公開ダンスワークショップを開催した。また、「高岡が生んだ天才演奏家たち」と題し、第1弾は声楽家・森雅史氏によるリサイタルを、第2弾としてヴァイオリニスト・堀正文氏によるコンサートを開催した。

万葉歴史館では、春の特別企画展「大伴家持のすがた」と、秋の特別企画展「田村泰秀万葉拓本展」を開催した。秋の特別企画展では、古歌碑を紹介するとともに、ミュゼふくおかカメラ館との連携展示として、写真家・牧野貞之氏が撮影した越中万葉故地の写真を展示した。特別展示「万葉のふるさと高岡フォトコンテスト入賞作品展」では、「大伴家持が歌に詠んだ植物」をテーマに募集した作品の中から入賞作を中心に展示した。展示とともに学習講座を開催すること等で、万葉の普及に努めた。

美術館では、5月にかけて「THE ドラえもん展 TAKAOKA 2018」を開催し、幅広い年齢層から好評を得た。7月から9月は「勝興寺展」、10月から12月にかけては「椿絵名品展」を開催し、多くの来場者から好評を得た。恒例の展覧会としての「高岡市民美術展」、「日本伝統工芸富山展」、「高岡市美術作家連盟展」、「クリエイティブ・たかおか」、「GEIBUN10」のほか、当館のコレクション展示として「コレクション展 高岡の金工・漆芸」を開催した。また、「高岡市美術館サテライトギャラリー」など、街中での美術館活

動普及事業にも積極的に取り組んだ。

博物館では、6月～8月に特別展「古写真にみる高岡」を、続けて11月に企画展「堀田一族と伏木 ～堀田善衛生誕100年・日本遺産「北前船寄港地」追加認定記念」を開催した。館蔵品展「昔の道具とくらし」のほか、郷土学習講座（全3講）や古文書講座（全6講）、屋上開放や呈茶の会などの各種イベントも開催し、また、高岡テクノドームでの博物館サテライトギャラリーの実施など、多くの方々に来館・受講いただき、好評を得ることができた。

カメラ館では、4月～6月は、「白鳥真太郎展」を、6月～9月は、新美敬子による写真展「ねこと、いぬと、いつまでも」を開催した。9月より「牧野貞之万葉写真展」「富士フィルムフォトコンテスト入賞作品展」を同時開催した。「青木紘二写真展」では、魚津市出身でアフロ代表の青木紘二による世界最高峰のスポーツ名場面を展示した。「浅井慎平写真展」は、海外スナップ作品を中心に写真表現の本質を紹介する内容となった。

II 各施設の事業内容

1 事務局事業（文化振興事業）

「第48回高岡市芸術祭」（期間：10月12日から11月11日まで）を高岡市芸術文化団体協議会（邦楽、洋楽、華道、茶道）及び高岡市美術作家連盟との協働により開催した。

自主事業活動として市内小学校へのアウトリーチ活動「出張公演・出前講座」を年間14回開催した。7月には青年の家を会場に「夏のわくわくワークショップ」と題し、日本の楽器やおどり、能など伝統と格式ある芸能の世界を通して次世代に繋ぐための取り組みを積極的に行った。8月には邦楽部会日舞部門による「青少年わかば公演」をふくおか総合文化センターホールで開催し、若い芽の育成を図った。

また、高岡市民会館の当面の休館を受け、これまでの市民会館事業の継続を図りながら、合わせて年間を通して開催する「Ars nova 音楽の祭典」に着手した。

4月には、TAKAOKA 春の音楽祭として北陸最大の音楽イベント「風と緑の楽都音楽祭」高岡公演を3日間3公演開催した。生涯学習センターホールでは、俳優の西村まさ彦氏、ダンサーの田中泯氏による2公演、また国宝瑞龍寺公演では、武部薫氏（アルト・高岡市出身）ほか北陸出身のアーティストたちが満席の来場者を魅了した。

5月には、未来へ繋ぐ舞台鑑賞事業（教育普及事業）として市内小学4年生全児童を対象に、25回目となる「10才のファーストコンサート」を、今年から富山県高岡文化ホールを会場に、午前・午後の2回公演として開催した。指揮・お話に田中祐子氏、管弦楽にオーケストラ・アンサンブル金沢を迎え、レクチャーコンサートとして指揮者体験や楽器紹介、全員合唱など趣向を凝らしたプログラムで学校現場から高い評価を得た。

6月には、高岡文化ストック⇒クラウド事業「天才たちと何できる？」第3弾として吹奏楽公開クリニックを開催した。NHK教育テレビでも紹介された奇跡の吹奏楽指導者・藤重佳久氏を招聘し、市内中学校吹奏楽部4校（高岡西部・芳野・戸出・福岡）をモデルバンドに公開クリニックを行った。また、各校の会場それぞれに100名以上の見学者が訪れ、藤重氏のユニークで全国トップレベルの指導を仰ぎたい生徒や学生、地元指導者が来場し、大きな反響を呼んだ。なお、夏の全日本吹奏楽高岡地区コンクールでは受講した4校全てが金賞を受賞、芳野中学校は全国大会へと駒を進めた。

7月から10月には TAKAOKA 秋の音楽祭「第4回みんなで歌おう1000人の高岡第九」本公演に向け、市民実行委員会の立ち上げとともに市民合唱団員を公募し、「みんなで歌おう高岡第九合唱団」約150人が15回の合唱練習に取り組んだ。10月には、ふくおか総合文化センター・アリーナに特設ステージを設置し、市民オーケストラ「高岡フィルハーモニー管弦楽団」約80人と高岡ゆかりのソリストたちとともに、市民手作りの感動溢れる歓喜の歌を披露した。また、美しい日本語で綴る混声合唱「ふるさとの四季」も好評を得るなど、出演者・観客数合わせて1000人超えの目標も達することができた。

9月には、TAKAOKA 秋の音楽祭「日露交歓コンサート高岡公演2018」を富山県高岡文化ホール大ホールにて開催した。ピアノや声楽、器楽による名門モスクワ国立音楽院ゆかりの演奏家たちが入場無料のガラコンサートとして珠玉の名曲を披露したほか、高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所コーラス部が特別共演し、市民の歌や日本の唱歌を

市内小中学生及びその家族、一般鑑賞応募者による満席の客席へと届けた。

12月には、TAKAOKA 冬の音楽祭「高岡が生んだ天才演奏家たち」第1弾として、第35回「とやま賞」受賞の声楽家・森雅史氏によるリサイタルを、地元後援会の協力を得て開催した。ゲストにイタリア・スカラ座で活躍する気鋭の声楽家マッティア・オリビエーリ（バリトン）を迎え、男声低音の魅力あふれる一流の演奏を届けた。

1月には、高岡文化ストック⇒クラウド事業「天才たちと何できる？」第4弾として、これまでの市民会館事業に参画・ダンス指導のほか高岡のダンス活動にゆかりの深い舞踊家・近藤良平氏を講師に迎え、公開ダンスワークショップを開催した。60名を超える参加者が、近藤氏が考えるダンスの魅力や楽しさを体現し、自分の殻を破ることで新しい表現力の向上を目指した。また、舞踊家と地域が交流する取り組みの過程で、ダンスのアート性や可能性をテーマに、さらにまち全体で展開していく助言をいただいた。

2月には、TAKAOKA 冬の音楽祭「高岡が生んだ天才演奏家たち」第2弾として、NHK交響楽団のソロコンサートマスターとして35年間の長きにわたり牽引し、現在同団の名誉コンサートマスターであるヴァイオリニスト・堀正文氏によるコンサートを開催した。新進気鋭の若き実力派女性演奏家2人とともに、トップレベルの質の高い演奏を披露し、多くの同窓生を含む満席の客席に感動を与えた。

3月には、TAKAOKA 冬の音楽祭「オーケストラ×吹奏楽の祭典」と題し、地元高校吹奏楽部を巻き込んだ圧巻のステージを富山県高岡文化ホール大ホールにて開催した。指揮者は吹奏楽界でも絶大な人気を誇る藤岡幸夫氏を、管弦楽にはオーケストラ・アンサンブル金沢を招聘し、高岡工芸高等学校吹奏楽部21人及び高岡高等学校吹奏楽部38人がプロのオーケストラとともに壮大かつ心振るわす感動のステージを満席の客席に届けた。100人を超える合同合奏「宝島」、またアンコールとして吹奏楽版「ふるさと高岡」を披露し、プロと地元高校吹奏楽部と一緒に登壇する貴重な体験の場を提供した。また本事業には地元企業・団体から多くの賛同・協賛を得て取り組んだ。

その他年間を通して、高岡市民会館ホールサポーターの会「パープル」が、「TAKAOKA 西へ東へ。おでかけサロンコンサート」として、リトルウイングや事業団各施設を会場に開催し、今後の継続についても検討した。特に11月の200回記念サロンコンサートでは、高岡第九公演のソリストを迎えた華やかなコンサートとともに、高岡市が同日主催した芸術文化シンポジウムへの協力並びに第1回からのポスター展も併催した。

2 事務局事業（生涯学習事業）

生涯学習センター講座開設事業では、「はじめての万葉集」や「前田家のまちづくりと町民文化」をはじめとした多彩な自主講座や、県内の大学と連携して実施する専門的な講座、小中学生を対象とした能楽講座等を開催した。

生涯学習センターホール自主公演では、10月に「サーカス40周年コンサート」を県ネットワーク公演事業として開催した。サーカスのヒット曲を中心に、ライブ感溢れる見事なハーモニーと地元共演の女声合唱「フェリーチェ」が心温まるプログラムで披露し、満席の客席を魅了した。また、ウイング・ウイング祭共催による「コンサートピアノ演奏体験」を開催し、市民会館より生涯学習センターへ移設したコンサートピアノ「スタンウェイ」による初の演奏体験を行った。

リトルウイング賑わい創出事業では、「2018街角クラシック in Little Wing」や「SONGS LONG VACATION」を開催し、好評を博した。

3 万葉歴史館事業

万葉歴史館では、万葉歌人 大伴家持や越中万葉、『万葉集』をテーマとした展示や学習講座等を開催し、越中万葉の普及と高岡市の「万葉のふるさとづくり」に努めた。

企画展示は、前年度に引き続き第6回企画展「越中国と万葉集」を開催した。春の特別企画展「大伴家持のすがた一館蔵品を中心に歌仙絵から現代洋画まで」では、さまざまにとらえられた大伴家持のすがたを、館蔵品を中心に紹介した。秋の特別企画展「田村泰秀万葉拓本展」では、古歌碑と呼ばれる江戸時代に建立された万葉歌碑を、主として田村泰秀氏が収集した拓本を通して紹介し、あわせて、ミュゼふくおかカメラ館との連携展示として、写真家・牧野貞之氏が撮影した越中万葉故地の写真を展示した。特別

展示「万葉のふるさと高岡フォトコンテスト入賞作品展」では、「大伴家持が歌に詠んだ植物」をテーマに募集した作品の中から入賞作を中心に展示した。

教育普及事業では、例年実施している高岡万葉セミナーを「大伴家持歌をよむⅡ」と題して開講した。学習講座は、館長講座「『日めくり万葉集』を読む」・「万葉集をよむ」・「古代への招待」・「大伴家持とともに」と、出前講座の「はじめての万葉集」（会場 高岡市生涯学習センター）、「はじめての越中万葉Ⅱ」[会場 高岡市ふくおか総合文化センター(Uホール)]を前年度に引き続き開講した。あわせて臨地研修「第6回越中万葉ウォーカー二上山ー」、「第4回歌枕を訪うー山陰道・因幡から山陽道・備前美作へー」を開催した。また、富山大学での館長及び研究員による講義、学校移動展示「越中万葉パビリオン」、「坂本信幸の越中万葉教室」を昨年度に引き続き実施し、学生が『万葉集』に親しんでもらえるように取り組んだ。

出版事業では、万葉歴史館の研究の成果を紹介する『高岡市万葉歴史館紀要 第二十九号』、『高岡市万葉歴史館論集』19(『大伴家持歌をよむⅡ』)を出版した。

5月と9月の連休中に開催した万葉衣装体験では、幅広い層の来館者が万葉衣装を着て万葉人になりきり好評であった。

里中満智子『言霊の人・大伴家持』作品展(高志の国文学館・高岡市万葉歴史館連携展示)、伏木中学校写生大会・受賞作品展、夏を彩る芸文の扇子展、特別出張展示(会場の駅「雨晴」)の開催等で、他館や地域、学校等との協力を進めた。また、ホールサポーターの会「パープル」のおでかけサロンコンサート等の万葉歴史館を会場とした各種イベントが多数開催され、当館の利用促進につながった。

万葉歴史館の魅力向上を図るため、親しみやすくボランティア「和草」(説明員)が案内するとともに、学校や団体客等に対しては研究員自らが案内をした。

4 美術館事業

美術館では、郷土の美術・工芸の研究成果を収集・保存・展示に生かし、美術館活動の普及のために広範な教育活動を行っている。

平成30年度の企画展示は、前年度3月から5月にかけて「THE ドラえもん展 TAKAOKA 2018」を開催した。同展では「あなたのドラえもんをつくってください。」をテーマに、国内外で活躍する28組のアーティスト達が様々な発想や技法で「ドラえもん」を表現した作品が一堂に会した。期間中は県内外だけでなく海外からの来館者も多く、幅広い年齢層から好評を得た。

5月から6月にかけては「コレクション展 高岡の金工・漆芸」を開催し、「ものづくり・デザイン科」に学ぶ児童・生徒たちへの教育普及を主な目的に、美術館所蔵の金工・漆芸の名作を展示し、地域の工芸の優れた技と歴史について紹介した。

7月から9月にかけては、「本坊一般公開記念 勝興寺展」を開催した。平成の大修理が進む高岡市伏木古国府の勝興寺が、修復の完了した本坊の一部を今夏一般公開することを記念して、修理によって見えてきた勝興寺の魅力を紹介するとともに、重要文化財「勝興寺本 洛中洛外図屏風」をはじめとする、同寺に伝わる貴重な絵画や工芸などを展示した。開催期間中は夏休みということもあり、小学生や中学生の来館が目立った。また、勝興寺と連携した割引企画を設け、伏木地区と当館の間に回遊性を持たせるとともに、来館者により深く勝興寺の魅力を知ってもらうことが出来た。

10月から12月にかけては「椿絵名品展『つばき咲く』-光琳、大観、夢二など-」を開催し、椿絵のコレクションで知られるあいおいニッセイ同和損害保険の収蔵作品から、近世から現代までの日本画、洋画、工芸における椿絵の名品約80点を展示した。椿という花の多様な魅力を7章にちりばめ、尾形光琳、横山大観、竹久夢二、岸田劉生、北大路魯山人など、日本美術史上に名を残した作家たちがつくりあげた、様々な椿の姿をお楽しみいただく機会とし、多くの来場者から好評を得た。

12月から1月にかけては「第5回クリエイティブ・たかおか ～未来に輝く 高岡市児童生徒作品展～」を、2月には「GEIBUN10-富山大学芸術文化学部 大学院芸術文化学研究科 卒業・修了研究制作展-」など、学校と美術館が連携し、市内の小中学校から大学までの児童、生徒、学生らの作品を展覧した。

恒例の展覧会としての「高岡市民美術展」、「日本伝統工芸富山展」、「高岡市美術作家

連盟展」についても、各々地域の作家たちの成果を発表する場として好評を得た。

また、「高岡市美術館が街に出ます」や「高岡市美術館サテライトギャラリー」など、街中での美術館活動普及事業にも積極的に取り組んでいる。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでは、まんが原画の展示を通じて、幅広い世代に藤子・F・不二雄先生のメッセージを伝え、先生の作品を身近に感じていただき、理解を深めた。

企画展示は、5月29日から原画展「F-GIRLS コレクション展」後期展示と、12月1日から藤子・F・不二雄先生が描く人間以上に人間らしい表情と心を持つ“ロボット“＝ロボ友“たちを紹介する「Fのロボ友原画展」前期展示を開催した。

5 博物館事業

展示事業としては、昨年度から継続して5月まで館蔵品展「昔の道具とくらし」を開催し、当館が収蔵する古い生活道具類「民具」に焦点をあて、民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしぶりについて展示・紹介した。

常設展「高岡ものがたり」(通年開催)では、高岡の歴史・民俗・伝統産業などについて分かりやすく紹介し、団体見学への展示解説等を行った。常設展の内「お宝コーナー」では、「懐かしのレトロゲーム展」、「新発見！高岡共立銀行宛の渋沢栄一書簡」、「吉田松陰と佐久間象山の動向を伝える坪井信良書簡」、「焼き物を楽しむー高岡ゆかりの陶芸資料ー」を順次開催した。

また、6月から開催した特別展「古写真にみる高岡」では、当館が近年新たに収蔵した写真絵葉書を中心に、高岡の古写真を展示・紹介した。9月から開催した企画展「堀田一族と伏木 ～堀田善衛生誕100年・日本遺産「北前船寄港地」追加認定記念」では、国際的視野を持った芥川賞作家・堀田善衛(1918～98)の生誕100年の記念、及び先日伏木が日本遺産に追加認定されたことを記念して、善衛を育んだ伏木と堀田一族(八坂家・稲垣家・野口家)について歴史資料を中心に展示・紹介した。館蔵品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしぶりについて展示・紹介している(次年度5月6日まで開催予定)。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座(全3講)、古文書講座「初めての古文書教室」(全6講)を開催した。また、桜の時期に合わせた屋上開放「古城公園展望台」、呈茶の会「松聲庵ー博物館で抹茶を楽しみませんかー」(春・秋)を開催した。そのほか、講師・委員の派遣協力、高岡テクノドームでの博物館サテライトギャラリーの実施なども行った。

資料収集・保存活動では、歴史・民俗・伝統産業等にかかる資料の収集・保存に努めた。調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組んだ。また、国登録有形民俗文化財「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要指定へ向けた当館収蔵の鋳物資料調査を行った。加えて当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、計730件の資料情報をインターネット上で公開した。

6 青年の家事業

心身ともに健全な育成を図るため、生涯学習の一環として、「文化教室」・「現代教養講座」・「交流支援事業」を実施した。

「文化教室」では、着付け及びいけばな、水彩画、ペン習字、ヴィオリラ、二胡、引締体操とストレッチ、心身リフレッシュ体操(3B体操)教室の8教室を開講した。「現代教養講座」では、初心者を対象に中国語及び韓国語の教室を、外国人講師を迎えて開講した。また、「交流支援事業」として、スポーツ吹矢と太極拳教室の2教室を開催し交流を図ったほか、リーダー研修会「能・立山信仰」を開催した。

7 ミュゼふくおかカメラ館事業

4月～6月は、白鳥真太郎による貌・KA0Ⅱ 白鳥写真館「これから…」を開催した。芸術や文化など様々な分野で活躍する“達人”のポートレイトを通じて、人生の歩みや意気込みを紹介した。6月～9月は、犬猫写真家として活躍する新美敬子による写真展「ねこと、いぬと、いつまでも」を開催した。世界50ヶ国を超える地域で出会った犬

や猫と人との暮らしを紹介した。9月より牧野貞之万葉写真展／富士フィルムフォトコンテスト入賞作品展を同時開催し、万葉集に登場する美しい風景に加え、独自の感性や想像力を活かしたコンテスト入賞作品をご覧いただいた。青木紘二写真展 冬季オリンピック 報道の世界／クライアントワーク Part 1では、魚津市出身で世界的なストックフォトエージェンシー・アフロ代表を務める青木紘二による写真展を開催した。オリンピックに代表される世界最高峰のスポーツ名場面を展示した。また、俳句など様々な分野で活動続ける浅井愼平写真展は、海外スナップ作品を中心に構成され写真表現の本質を紹介する内容となった。

カメラコレクション展示事業では、「カメラとふくおかまちーいま、むかしー」や恒例となった「デビュー！NEWコレクション!!」を開催し、福岡町の歴史を捉えた写真とその時代に活躍したカメラを合わせて紹介するなど、ユーモアと解りやすさに重点をおいて、カメラの魅力を伝えた。加えて「つくってみよう！ぼくの・わたしの エコカメラ!」と題して、牛乳パックや虫眼鏡など身近な素材を使い、カメラの仕組みを学ぶワークショップを開催した。

資料整備事業では、カメラ整理ボランティアとの協力のもと、収蔵資料の整理・データ化を継続して実施した。

教育普及事業では、写真家によるギャラリートークや関連イベント、館長の写真教室・フォトコンテスト審査派遣、ワンダーフォト写真展の作品募集等を実施した。

8 古城公園動物園事業

動物園では飼育展示のほか、ふれあい広場、動物園まつり、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

「ふれあい広場」は、ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができ、来園者から好評を得ている。

レクリエーション施設としての機能はもとより、情操教育の場および環境保全への貢献のために、動物愛護の啓発や情報発信、種の保存に努めた。

9 二上まなび交流館事業

主催事業として、二上山の自然に触れる「二上山を楽しもう」を春、秋、冬に実施したほか、野外料理を満喫する「野外料理を楽しもう」や、高岡市で実施されているものづくり・デザイン科に備える「ものづくり体験クラブ」など、多彩な事業を行った。

県委託事業として、異年齢生活体験推進事業「夏合宿（小学4～6年生対象）」「なかよし合宿（小学1～3年生対象）」を実施し、異年齢児童による共同宿泊体験事業を行った。

通年のクラブ活動事業として「まなびっこクラブ」を開講し、ペン習字、茶道、箏、科学工作、パソコン、卓球の6クラブを実施した。技能の向上と共にクラブ員同士の友情を深めた。

「高岡市児童アイデア工作展・高岡市未来の科学の夢絵画展」を9月にウイング・ウイング高岡1階交流スペースで開催した。応募作品はそれぞれ207点と112点で、優秀作35点と20点を、「富山県発明とくふう展・富山県未来の科学の夢絵画展」に出品した。

10月には、当館に事務局を有する外部団体（高岡市児童クラブ連合会、ボーイスカウト高岡地区協議会、ガールスカウト高岡地区協議会）と共同で「まなびっこフェスティバル」を開催し、500人を超える来場者があった。

この他、宿泊学習や親子活動などの学校教育団体、クラブ合宿やボーイスカウト、ガールスカウト活動などの社会教育団体、職員研修などの企業団体等、多くの方々に様々な体験活動の場を提供した。

なお、まなび交流館における公益目的事業の利用は、主催事業や小・中学校宿泊学習、スポーツ少年団活動など267回で、利用人数は13,485人であった。

一方、収益目的事業の利用は、研修室等の一般への貸与など43回で、利用人数は733人であった。

Ⅲ 評議員会に関する事項

1 審議内容

- (1) 第15回評議員会 平成30年5月31日開催
報告第1号 平成29年度事業報告について 承認
議案第1号 平成29年度決算の承認について 可決
議案第2号 理事の選任について 可決
- (2) 第16回評議員会 平成31年3月26日開催(書面によるみなし決議)
議案第3号 監事の選任について 可決

2 評議員の異動状況

平成30年4月1日	評議員	小林 福美	就任
平成30年11月12日	評議員	前田 一樹	辞任(死亡)

Ⅳ 理事会に関する事項

1 審議内容

- (1) 第37回理事会 平成30年4月1日開催(書面によるみなし決議)
議案第1号 専務理事(業務執行理事)の選定について 可決
議案第2号 事務局長の任免について 可決
- (2) 第38回理事会 平成30年5月14日開催
議案第3号 平成29年度事業報告の承認について 可決
議案第4号 平成29年度決算の承認について 可決
議案第5号 第17回評議員会の招集について 可決
- (3) 第39回理事会 平成30年5月31日開催(書面によるみなし決議)
議案第6号 理事長(代表理事)の選定について 可決
議案第7号 副理事長(代表理事)の選定について 可決
議案第8号 専務理事(業務執行理事)の選定について 可決
- (4) 第40回理事会 平成30年12月20日開催(書面によるみなし決議)
議案第9号 平成30年度補正予算(第1号)の承認について 可決
- (5) 第41回理事会 平成31年3月22日開催(書面によるみなし決議)
議案第10号 第16回評議員会への議案提出について 可決
- (6) 第42回理事会 平成31年3月28日開催
議案第11号 平成31年度事業計画の承認について 可決
議案第12号 平成31年度予算の承認について 可決

2 理事、監事の異動状況

- (1) 平成30年4月1日
- | | | |
|------|-------|----|
| 専務理事 | 高野 武美 | 就任 |
| 理事 | 福田 直之 | 就任 |
| 監事 | 山田 晃 | 就任 |
- (2) 平成30年5月31日
- | | | |
|----|-------|-------|
| 理事 | 小栗 久雄 | 就任(再) |
| 理事 | 坂本 信幸 | 就任(再) |
| 理事 | 高野 武美 | 就任(再) |
| 理事 | 高橋 正樹 | 就任(再) |

理事	武山 良三	就任 (再)
理事	辻 やす子	就任 (再)
理事	永田 義邦	就任 (再)
理事	氷見 哲正	就任 (再)
理事	福田 直之	就任 (再)
理事	蓑 厚行	就任 (再)
理事	村上 隆	就任 (再)

理事長	高橋 正樹	就任
副理事長	氷見 哲正	就任
専務理事	高野 武美	就任

(3) 平成31年 3月31日

監事	山田 晃	辞任
----	------	----